

母性看護学実習におけるルーブリック評価表を用いた学習効果
-実習前後の比較-

Learning effect using rubric evaluation table in maternity nursing practice
-Comparison before and after practicum-

坂本保子 籾さと子 堺香奈子

要旨

本研究は、母性看護学実習で沐浴によるルーブリック評価をもとに実習前後での学生と教員との比較から学習効果を明らかにすることを目的に看護学生 43 名を対象に調査を行った。その結果、学生は、実習前の得点が教員の得点より高い結果であった。中央値、第 1 四分点、第 3 四分点は、実習前より実習後が高い得点であった。学生は「助言なしで沐浴後の保温に注意できる」、「介助なしで頭部と頸部に注意して整髪ができる」、「助言なしでボディメカニクスを考えて実施できる」で実習前より実習後で有意に得点が高かった ($p < .05$)。教員の実習前後の比較では、ほとんどの項目で得点が高く、【沐浴の手順】では特に有意に得点が高かった ($p < .001$)。ルーブリック評価を活用したことにより沐浴における学習効果は認められた。

キーワード：母性看護学実習，沐浴，ルーブリック評価表

I. はじめに

我が国の大学教育では、2011 年 4 月に大学設置基準¹⁾が改定され、卒業の認定のみならず通常の授業における成績評価基準等を明示する必要性が述べられている。また、大学設定基準の改定に伴って、翌年 2012 年 3 月に学校教育法施行規則（学校教育法 2012）が改定²⁾され、通常の学修成果に係わる評価基準の明示化と公表が義務づけられていることから、学習者の達成度を示す基準となるルーブリック評価が求められることになった³⁾。厚生労働省の 2011 年の看護教育に関する検討会では、看護師に求められる実践能力として、①ヒューマンケアの基本的な能力、②根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力、③健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力、④ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力、⑤専門職者として研鑽し続ける基本能力、の 5 つが挙げられている⁴⁾。これらの実践能力を総合的にとらえるために、ルーブリックという評価方法が活用されている⁵⁾。

A 大学では、令和 4 年から新生児の沐浴

実習でルーブリック評価を導入している。新生児の沐浴は、新生児に対する清潔ケアとして実践する。また清潔・衣生活援助の他に、環境調整、排泄援助、呼吸・循環を整える技術、感染予防、転落のリスクや安全管理、安楽の確保を統合して行う複雑な看護技術であり、手順や留意点などに配慮する必要がある。

実施にあたっては新生児の安全の側面から、臨地実習前に学内で十分な演習を行い技術習得することが求められる。その一方で、沐浴は、看護学生にとっては緊張と不安を伴う^{2) 3)}技術でもある。特に新生児の頭部の把持や固定は難しく⁴⁾、落下の危険^{5) 6) 7)}が指摘されている。新生児や乳児に関わった経験のない多くの看護学生にとって、沐浴を実施することは容易なことではないと推測される。

学生が自ら学び、自ら考え行動する力を評価しながら成果や振り返りを自己評価する方法である⁸⁾。ルーブリックによる実習評価は、客観的評価と学習目標を達成するためであり、評価基準を明確にすることで、学生の課題への達成感を与え看護の実

践力が高められることが期待できる。また、学生と教員と一緒にルーブリック評価を行うことで、技術の習得を促し、看護の実際をリフレクションし、そこで、母性看護学実習においてルーブリック評価表を活用することのより学習効果がどのようにあるのかを明らかにし、効果的な評価方法について検討していく。

II. 研究目的

母性看護学実習でルーブリック評価をもとに実習前後で沐浴での学生および教員との評価を比較し学習効果を明らかにすることを目的とした。

III. A 大学における母性看護実習

母性看護学実習は、4～5名の学生を1グループとして、臨地病院実習を10日間実施している。学生は、事前に沐浴の練習や沐浴テストを実施して実習に臨む。

IV. 研究方法

1. 研究デザイン

ルーブリック評価表を用いた調査

2. 研究対象

研究対象者：「母性看護援助論」と「母性看護学実習」を履修する母性看護実習を履修し研究に同意を得られた学生
A 大学看護学生 43 名を対象とした。

3. 調査期間

2022 年 9 月から 2023 年 6 月まで

4. 調査方法

実習前後で、沐浴実施後に評価を行い実習後にルーブリック評価表を回収した。

5. 調査内容

ルーブリック評価表：母性看護学領域担当教員で森田・上田らのルーブリック評価⁹⁾を参考に自記式調査票と評価基準を A 大学内の教員で到達目標や評価基準を確認しながら作成したものを使用した。評価の観点では【沐浴準備と知識】、【安全安楽】、

【沐浴手順】の項目のうち、合わせて 20 項目で作成されている。評価尺度は 4 段階評価とし、評価 A (4 点)：助言や介助なしでできる状態、評価 B (3 点)：少

しの助言や介助でできる状態、評価 C (2 点)：かなりの助言や介助でできる状態、評価 D (1 点)：ほとんどできない状態の 4 件法とした。

6. 分析方法

基礎集計後、実習前後の比較に Wilcoxon の符号付き順位検定を実施した。統計学的有意水準は両側検定にて有意確立は 5%未満とした。分析には、SPSS Ver28.0 を使用した。

7. 倫理的配慮

学生には研究目的、方法、記録は、データ化し研究発表することを説明した。また研究は実習終了後の教員評価後に行われ研究への協力は得られなくても成績に関係ないこと、研究の内容は、自由意思で無記名であること、個人のプライバシーの保護に十分配慮することを説明した研究の承諾を得た。研究の同意撤回したい場合は担当教員に連絡することを説明した。尚、本研究は所属大学倫理委員会の承認を得て行った (承認番号 22-05)。

V. 結果

1. 基本属性

基本属性の結果を表 1 に示す。対象の属性は男性 7 人 (16%)、女性 36 人 (84%) であった。平均年齢は 21.3 歳であった。

表 1 対象の属性

			n 43
性別	男性	7人	16%
	女性	36人	84%
平均年齢		21.3 歳	

2. 学生の実習前後の得点

学生の実習前後の総合計の中央値、四分位範囲を表 2 に示す。

【沐浴準備と知識】での「助言なしで物品がすべてそろっている」では実習前の得点は、4.0 点 (4.0-4.0) で、実習後得点は 4.0 点 (4.0-4.0) であった。助言なしで物品が適切な位置の準備できる」では、実習前の得点は 4.0 (3.0-4.0) で実習後

は4.0 (3.0-4.0)であった。「助言なしで新生児の衣服準備が整っている」では、実習前は4.0点 (4.0-4.0) で実習後は4.0点 (4.0-4.0) であった。「湯の最適温度がわかる」では、実習前は4.0点 (4.0-4.0) で実習後は4.0点 (4.0-4.0) であった。「助言なしで物品の片付と環境整備ができる」では実習前は4.0点 (4.0-4.0) で実習後は4.0点 (3.0-4.0) であった。

【安全安楽】での「処置台とベビーコットのストッパーの確認ができる」では、実習前は4.0点 (4.0-4.0) で実習後は4.0点 (4.0-4.0) であった。「新生児標識 (ベットネームと新生児標識) の確認」では、実習前は4.0点 (4.0, 4.0) で実習後は4.0 (4.0-4.0) であった。「助言なしで関節に注意しながら衣服の着脱ができる」では実習前は4.0点 (4.0-4.0) で実習後は4.0点 (4.0-4.0) であった。「新生児から目を離すところに周囲に声掛けができる」では、実習前は4.0点 (4.0-4.0) で実習後は4.0点 (4.0-4.0) であった。「助言なしでボディメカニクスを考えて実施できる」では、実習前は3.0点 (3.0-4.0) で実習後は4.0点 (3.0-4.0) であった。

【沐浴手順】は、「助言なしで適切に顔面の清拭ができる」では、実習前は4.0点 (3.0-4.0) で実習後は4.0点 (4.0-4.0)

であった。「助言なしで全身観察ができ安全に沐浴ができる」では、実習前は3.0点 (3.0-4.0) で実習後は3.0 (3.0-4.0) であった。「介助なしで足部より体全体を湯に入れお湯をかける」では、実習前は4.0点 (4.0-4.0) 実習後では4.0点 (3.0-4.0) であった。「介助なしで頭部・上肢・腋窩・頸部・胸腹部・下肢を順番に洗える」では、実習前は4.0点 (4.0-4.0) で実習後では4.0点 (3.0-4.0) であった。

「介助なしで安全に腹臥位に体位変換できる」では、実習前は4.0点 (3.0-4.0) で実習後は4.0点 (3.0-4.0) であった。「介助なしで安全に背部、臀部を洗うことができる」では、実習前は4.0点 (3.0-4.0) で実習後は3.0点 (3.0-4.0) であった。「助言なしで沐浴後の保温に注意できる」では、実習前は4.0点 (3.0-4.0) で実習後は4.0 (3.0-4.0) であった。「助言なしで児に声かけができる」では、実習前は4.0点 (3.0-4.0) で実習後は4.0点 (3.0-4.0) であった。「介助なしで臍帯、耳介、鼻腔の処置ができる」では、実習前では3.0点 (3.0-4.0) 実習後では4.0点 (3.0-4.0) であった。「介助なしで頭部と頸部に注意して整髪ができる」では、実習前では4.0点 (3.0-4.0) 実習後では4.0 (3.0-4.0) 点であった。

表2 学生の実習前後の比較

		中央値 (25%、75%四分位)		p値
		実習前	実習後	
準備と知識	助言なしで物品がすべてそろっている	4.0 (4.0, 4.0)	4.0 (4.0, 4.0)	.480
	助言なしで物品が適切な位置の準備ができる	4.0 (3.0, 4.0)	4.0 (3.0, 4.0)	.467
知識	助言なしで新生児の衣服準備が整っている	4.0 (4.0, 4.0)	4.0 (4.0, 4.0)	.527
	湯の最適温度がわかる	4.0 (4.0, 4.0)	4.0 (4.0, 4.0)	1.000
安全	助言なしで物品の片付と環境整備ができる	4.0 (4.0, 4.0)	4.0 (3.0, 4.0)	.225
	処置台とベビーコットのストッパーの確認ができる	4.0 (4.0, 4.0)	4.0 (4.0, 4.0)	.096
安全安楽	新生児標識 (ベットネームと新生児標識) の確認	4.0 (4.0, 4.0)	4.0 (4.0, 4.0)	.366
	助言なしで関節に注意しながら衣服の着脱ができる	4.0 (4.0, 4.0)	4.0 (4.0, 4.0)	.206
沐浴手順	新生児から目を離すところに周囲に声掛けができる	4.0 (4.0, 4.0)	4.0 (4.0, 4.0)	1.000
	助言なしでボディメカニクスを考えて実施できる	3.0 (3.0, 4.0)	4.0 (3.0, 4.0)	.041 *
沐浴手順	助言なしで適切に顔面の清拭ができる	4.0 (3.0, 4.0)	4.0 (4.0, 4.0)	.593
	助言なしで全身観察ができ安全に沐浴ができる	3.0 (3.0, 4.0)	3.0 (3.0, 4.0)	.102
沐浴手順	介助なしで足部より体全体を湯に入れお湯をかける	4.0 (4.0, 4.0)	4.0 (3.0, 4.0)	.285
	介助なしで頭部・上肢・腋窩・頸部・胸腹部・下肢を順番に洗える	4.0 (4.0, 4.0)	4.0 (3.0, 4.0)	.415
沐浴手順	介助なしで安全に腹臥位に体位変換できる	4.0 (3.0, 4.0)	4.0 (3.0, 4.0)	.425
	介助なしで安全に背部、臀部を洗うことができる	4.0 (3.0, 4.0)	3.0 (3.0, 4.0)	.157
沐浴手順	助言なしで沐浴後の保温に注意できる	4.0 (3.0, 4.0)	4.0 (3.0, 4.0)	.033 *
	助言なしで児に声かけができる	4.0 (3.0, 4.0)	4.0 (3.0, 4.0)	.180
沐浴手順	介助なしで臍帯、耳介、鼻腔の処置ができる	3.0 (3.0, 4.0)	4.0 (3.0, 4.0)	.162
	介助なしで頭部と頸部に注意して整髪ができる	4.0 (3.0, 4.0)	4.0 (3.0, 4.0)	.043 *

Wilcoxon の符号付き順位検定: * : P < .05

表3 教員の実習前後の比較

		中央値 (25%、75%四分位)		p値	
		実習前	実習後		
準備と知識	助言なしで物品がすべてそろっている	3.0 (3.0, 3.0)	3.0 (3.0, 4.0)	.000	***
	助言なしで物品が適切な位置の準備ができる	3.0 (2.0, 3.0)	3.0 (3.0, 4.0)	.006	**
	助言なしで新生児の衣服準備が整っている	3.0 (3.0, 4.0)	3.0 (3.0, 4.0)	.000	***
	湯の最適温度がわかる	4.0 (4.0, 4.0)	4.0 (4.0, 4.0)	1.000	
安全安楽	助言なしで物品の片付と環境整備ができる	3.0 (3.0, 4.0)	3.0 (3.0, 4.0)	.002	**
	処置台とベビーコットのストッパーの確認ができる	1.0 (1.0, 3.25)	4.0 (4.0, 4.0)	.705	
	新生児標識 (ベットネームと新生児標識) の確認	3.0 (2.0, 3.0)	3.0 (3.0, 4.0)	.000	***
	助言なしで関節に注意しながら衣服の着脱ができる	3.0 (3.0, 3.0)	3.0 (2.0, 3.0)	.000	***
	新生児から目を離すところに周囲に声掛けができる	4.0 (4.0, 4.0)	4.0 (3.0, 4.0)	.317	
	助言なしでボディメカニクスを考えて実施できる	2.0 (2.0, 3.0)	3.0 (3.0, 3.0)	.002	**
	助言なしで適切に顔面の清拭ができる	3.0 (3.0, 3.0)	3.0 (3.0, 3.0)	.000	***
	助言なしで全身観察ができ安全に沐浴ができる	2.0 (2.0, 2.0)	2.5 (2.0, 3.0)	.000	***
	介助なしで足部より体全体を湯に入れお湯をかける	3.0 (3.0, 3.0)	3.0 (3.0, 3.0)	.000	***
	介助なしで頭部・上肢・腋窩・頸部・胸腹部・下肢を順番に洗える	3.0 (2.0, 3.0)	.0 (2.75, 3.0)	.000	***
沐浴手順	介助なしで安全に腹臥位に体位変換できる	2.0 (2.0, 3.0)	2.0 (2.0, 3.0)	.000	***
	介助なしで安全に背部、臀部を洗うことができる	2.0 (2.0, 3.0)	2.0 (2.0, 3.0)	.000	***
	助言なしで沐浴後の保温に注意できる	2.0 (2.0, 3.0)	3.0 (3.0, 3.0)	.000	***
	助言なしで尻に声かけができる	3.0 (2.0, 3.0)	3.0 (3.0, 3.0)	.000	***
	介助なしで臍帯、耳介、鼻腔の処置ができる	2.0 (2.0, 3.0)	3.0 (3.0, 3.0)	.000	***
	介助なしで頭部と頸部に注意して整髪ができる	3.0 (2.0, 3.0)	3.0 (3.0, 3.0)	.000	***

Wilcoxon の符号付き順位検定: ***: P<.001 **: P<.01 *: P<.05

3. 教員の实習前後の得点

教員の实習前後の総合計の中央値、四分位範囲を表3に示す。

【沐浴準備と知識】での「助言なしで物品がすべてそろっている」では実習前の得点は、3.0点 (3.0-3.0) で、実習後得点は3.0点 (3.0-4.0) であった。

「助言なしで物品が適切な位置の準備ができる」では、実習前の得点は3.0 (2.0-3.0) で実習後は3.0 (3.0-4.0) であった。

「助言なしで新生児の衣服準備が整っている」では、実習前は3.0点 (3.0-4.0) で実習後は3.0点 (3.0-4.0) であった。

「湯の最適温度がわかる」では、実習前は4.0点 (4.0-4.0) で実習後は4.0点 (4.0-4.0) であった。「助言なしで物品の片付と環境整備ができる」では実習前は3.0点 (3.0-4.0) で実習後は3.0点 (3.0-4.0) であった。

【安全安楽】での「処置台とベビーコットのストッパーの確認ができる」では、実習前は1.0点 (1.0-3.25) で実習後は4.0点 (4.0-4.0) であった。「新生児標識 (ベットネームと新生児標識) の確認」では、実習前は3.0点 (2.0-3.0) で実習後は

3.0点 (3.0-4.0) であった。「助言なしで関節に注意しながら衣服の着脱ができる」では実習前は3.0点 (3.0-3.0) で実習後は3.0点 (2.0-3.0) であった。「新生児から目を離すところに周囲に声掛けができる」では、実習前は4.0点 (4.0-4.0) で実習後は4.0点 (3.0-4.0) であった。「助言なしでボディメカニクスを考えて実施できる」では、実習前は2.0点 (2.0-3.0) で実習後は3.0点 (3.0-3.0) であった。

【沐浴手順】は、「助言なしで適切に顔面の清拭ができる」では、実習前は3.0点 (3.0-3.0) で実習後は3.0点 (3.0-3.0) であった。「助言なしで全身観察ができ安全に沐浴ができる」では、実習前は2.0点 (2.0-2.0) で実習後は2.5 (2.0-3.0) であった。

「介助なしで足部より体全体を湯に入れお湯をかける」では、実習前は3.0点 (3.0-3.0) 実習後では3.0点 (3.0-3.0) であった。

「介助なしで頭部・上肢・腋窩・頸部・胸腹部・下肢を順番に洗える」では、実習前は3.0点 (2.0-3.0) で実習後では3.0点 (2.75-3.0) であった。「介助なしで安全に腹臥位に体位変換できる」では、実習前は2.0点

(2.0-3.0) で実習後は 2.0 点 (2.0-3.0) であった。「介助なしで安全に背部、臀部を洗うことができる」では、実習前は 2.0 点 (2.0-3.0) で実習後は 2.0 点 (2.0-3.0) であった。「助言なしで沐浴後の保温に注意できる」では、実習前は 2.0 点 (2.0-3.0) で実習後は 3.0 (3.0-3.0) であった。「助言なしで児に声かけができる」では、実習前は 3.0 点 (2.0-3.0) で実習後は 3.0 点 (3.0-3.0) であった。「介助なしで臍帯、耳介、鼻腔の処置ができる」では、実習前では 2.0 点 (2.0-3.0) 実習後では 3.0 点 (3.0-3.0) であった。「介助なしで頭部と頸部に注意して整髪ができる」では、実習前では 3.0 点 (2.0-3.0) 実習後では 3.0 (3.0-3.0) 点であった。

4. 学生の実習前後の比較

教員の実習前後比較は表 1 に示す。

実習前後の比較では、「助言なしで沐浴後の保温に注意できる」「介助なしで頭部と頸部に注意して整髪ができる」「助言なしでボディメカニクスを考えて実施できる」($p<.05$) で有意な差を認めた。

5. 教員の実習前後の比較

教員の実習前後比較は表 2 に示す。

【沐浴準備と知識】では、「助言なしで物品がすべてそろっている」「新生児の衣服準備が整っている」($p<.001$) で有意な差を認めた。「助言なしで物品が適切な位置の準備できる」「助言なしで物品の片付と環境整備ができる」で有意な差を認めた ($p<.01$)。

【安全安楽】では、「新生児標識 (ベットネームと新生児標識) の確認」「助言なしで関節に注意しながら衣服の着脱ができる」で有意差を認めた ($p<.001$)。

「助言なしでボディメカニクスを考えて実施できる」で有意な差を認めた ($p<.01$)。

【沐浴手順】では、「助言なしで適切に顔面の清拭ができる」「助言なしで全身観察ができ安全に沐浴ができる」「介助なしで足部より体全体を湯に入れお湯をかける」「介助なしで頭部・上肢・腋窩・頸部・胸腹部・下肢を順番に洗える」「介助なしで安全に腹臥位

に体位変換できる」「介助なしで安全に背部、臀部を洗うことができる」「助言なしで沐浴後の保温に注意できる」「助言なしで児に声かけができる」「介助なしで臍帯、耳介、鼻腔の処置ができる」「介助なしで頭部と頸部に注意して整髪ができる」で有意な差を認めた ($p<.001$)。

VI. 考察

ルーブリック評価は、タイミングよく、意味のあるフィードバックを学生の返すことができ、教育・学習過程において効果的な役割を担う¹⁰⁾とし、教員にとっての意義として実習に取り組んでいる今の学生の姿を捉え、必要な支援や指導に活かし、学生の学習意欲の向上に活かすための活用であるとされている⁸⁾。

学生の実習前後の比較では、ほとんどの項目で中央値、第 1 四分点、第 3 四分点は、実習前より実習後が高い結果であった。

しかし、「介助なしで安全に腹臥位に体位変換できる」では、実習前は 2.0 点 (2.0-3.0) で実習後は 2.0 点 (2.0-3.0) と同点であった。また「介助なしで安全に背部、臀部を洗うことができる」では、実習前は 4.0 点 (3.0-4.0) で実習後は 3.0 点 (3.0-4.0) で中央値の得点が実習後に低かった。その理由として、演習での動きのないモデル人形では、スムーズにできていても実際の新生児では、新生児の頭部の把持や固定は難しく⁴⁾、落下の危険^{5) 6) 7)}もあり、児の支え方や仰臥位から腹臥位への体位変換に不安が大きくなったためと推測される。

【安全安楽】での「処置台とベビーコットのストッパーの確認ができる」では、実習前は 1.0 点 (1.0-3.25) で実習後は 4.0 点 (4.0-4.0) であった。実習前では、演習であること、モデル人形であることでの安全確認の不足が考えられる。そのため、基本的な安全を最優先とする意識の徹底を定着させる指導方法が必要である。

学生の実習前後の比較では、「助言なしで沐浴後の保温に注意できる」「介助なしで頭部と頸部に注意して整髪ができる」

「助言なしでボディメカニクスを考えて実施できる」で有意な差を認めた ($p < .05$)。沐浴後の保温では、モデル人形は直接的に体温がわからないため保温に注意することが少ない。しかし、実際の新生児は、露出による低体温の様子が理解でき保温に留意したと考えられる。また、「ボディメカニクスを考えて実施できる」では、実習施設によって設備環境が異なるため新生児の沐浴において落下や転落を防止するために安全に安定した体勢で実施したことが推測される。

学生評価の実習前の得点では、教員の得点より高い結果であった。評価の得点の乖離についての関わりでは、近藤は、教員と学習者が双方向的に評価基準に取り組むこと、また学習者が実習での成果や成長を実感し、学習内容を身につけていくためには、教員の学生への細やかな関わりと、学生が理解し納得できるように評価基準を最適化することが重要である¹¹⁾と述べている。また、岸川らは、ルーブリックを活用することによって、より効果的な教育ができることが期待できる一方で、ルーブリックの効果的な活用を目指すためには、ルーブリックに対する学生の理解も必要である¹²⁾と述べている。

本研究の教員のルーブリック評価は、実習前に比べて、実習後に有意に得点が上がっている。その理由として、実習前では、モデル人形であることの学生の意識の低さがみうけられた。実習後は、実際の新生児を沐浴することで緊張は伴いながらも真剣に取り組むことができていた。また実習中は、新生児が自宅に帰るまでに数回の沐浴をする機会があり、回数を重ねるごとに上達していったことが考えられる。

作山らは、ルーブリック評価を活用することで自らの目標が明確になり主体的に実習に取り組むこと¹³⁾ができ、寺嶋らは、ルーブリックを他者と共有することでメンバー間の学習の調整機能を持ち「何を目標として今何をやっているか」という問題解決学習で曖昧になりがちな学習目標や内容が学習者自身にとってより明確となることが、

学習者にもたらし得る効果である¹⁴⁾と述べている。評価点が低い項目については、教員側の指導方法を改善すること、学生自身ができる・できていない部分を正確に把握することが必要である。

実習前の評価点が教員より高い学生については、学生自身が的確な自己評価できるように育てること、教員によるフィードバックが重要であり、学生が主体的に学習活動に取り組めるようにする必要がある。

今後、フィードバックのタイミングや方法を検討しながら教員が求めている技術や知識の共通認識や到達目標の違いを共有することが求められる。沐浴のルーブリックを作成し沐浴の技術について学習効果を確認できた。しかし実習目標でもある新生児に対する観察の理解の視点が不足しており今後、ルーブリック評価表を追加・修正が必要である。今回は、沐浴のみのルーブリック評価の活用であったが今後は、学習効果の向上のために他の看護技術に対する活用を検討する必要がある。

VII. 結論

母性看護学実習でルーブリック評価をもとに実習前後で沐浴での学生および教員との評価を比較し学習効果を明らかにすることを目的に A 大学看護学科学生 43 名を対象とし、以下の結果と課題が挙げられた。

1. 学生の実習前後の比較では、「助言なしで沐浴後の保温に注意できる」「介助なしで頭部と頸部に注意して整髪ができる」「助言なしでボディメカニクスを考えて実施できる」で実習後に有意に得点が高かった。
2. 教員の実習前後の比較では、ほとんど項目で得点が高く、【沐浴の手順】では実習後の得点があり高く高かった。
3. 母性看護学実習で沐浴によるルーブリック評価を用いた。学習効果として、学生にとって評価の視点や到達目標が理解しやすくなり、自己の課題を意識して実習に取り組むことができていたといえる。一方で、学生・教員相互の

到達状況を把握し効果的なフィードバックができていないことが課題として挙げられた。

謝辞

本研究に協力して下さった看護学生の皆様に心より感謝申し上げます。

研究助成情報

本研究は、令和5年度学校法人光星学院イノベーションプログラム(基金)研究等補助金の助成を受けたものである。

利益相反(COI)に関する開示事項はない。

文献

- 1) 大学設置基準, 第二十五条の二の2. 2011.
<https://elaws.egov.go.jp/document?lawid=331M50000080028> (参照 2023. 1. 31)
- 2) 学校教育法施行規則, 第四百七条の一. 2012. <https://elaws.egov.go.jp/document?lawid=322M40000080011> (参照 2023. 1. 31)
- 3) 石垣明子: 大学におけるルーブリック評価の開発—医療人文科目における社会人基礎力を涵養するルーブリック—. つくば国際大学研究紀要. No. 22. 27-39. 2016.
- 4) 厚生労働省: 「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」について. 2011.
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001316y.html> (観覧 2023. 1. 31)
- 5) 細尾萌子: ルーブリックの意義と活用のポイント教員・指導者も学生も成長する評価. 看護教育. 62 (8). 692-701. 2021.
- 6) 伊東良子: 新生児期実習における沐浴実施学習体験での看護学生の学び. 京都市立看護短期大学紀要. 34: 83-89. 2009.
- 7) 加藤千恵子, 結城佳子, 鈴木敦子, etc: 家庭での新生児の沐浴をイメージできる視聴覚教材の開発—看護学生の評価による新教材と既存教材の比較—. 名寄市立大学紀要. 3: 59-61
- 8) 糸賀暢子, 元田貴子, 西岡佳名恵: 看護教育のためのパフォーマンス評価ルーブリック作成からカリキュラム設定へ. 医学書院 pp96-97. 2017.
- 9) 森田敏子, 上田伊沙子: 看護教育に活かすルーブリック評価実践ガイド. メヂカルフレンド社. 2018.
- 10) Dannelle D. Stevens and Antonia J. Levi (2014). 佐藤浩章: 大学教員のためのルーブリック評価入門. 玉川大学出版部 pp12. 2014.
- 11) 近藤邦代: 母性看護学実習評価にルーブリックの導入を試みて. 第47回日本看護学会論文集看護教育. 日本看護学会論文集. 看護教育 / 日本看護協会編. 47. 111-114. 2017.
- 12) 岸川公紀, 梶田鈴子: ルーブリックの作成方法と活用に関する一考察—学生のアンケートを踏まえながら—. 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要. 51. 199-208. 2019.
- 13) 作山美智子, 傍島智子, 安藤莉香, etc: 在宅看護実習におけるルーブリック評価表を導入した教育効果の検討, 東北文化学園大学看護学科紀要 11 (1). 29-42. 2022.
- 14) 寺嶋浩介, 林朋美: ルーブリックの構築により自己評価を促す問題解決学習の開発, 京都大学高等教育研究. 12. 63-71. 2006.

執筆者紹介 (所属)

坂本 保子 八戸学院大学 看護学科 教授
篠 さと子 八戸学院大学 看護学科 助手
堺 香奈子 八戸学院大学 看護学科 助教